

(様式1)

平成31年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 075	提案機関名 茅ヶ崎市漁業協同組合
要望問題名 ハマグリ増殖に係る調査・指導について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 当漁協では、平成30年3月から4月にかけて、海底耕運も兼ねたハマグリの貝桁曳調査を実施したところ、10cm前後のハマグリが採捕されました。 また、今年の漁業者交流大会では、ほとんどないと考えられていたハマグリの資源が、種苗放流等の取組により回復したという発表がありました。さらに、「湘南ハマグリ」として新たなブランド化もされ、新名産として地域を賑わせたということでした。当漁協でも地先海面でハマグリが増殖すれば、新たな漁獲対象となるだけでなく、地域の新名産としての定着も見込まれるため、ハマグリの増殖を図りたいと考えています。 ハマグリの分布には砂の質が大きく影響すると聞いています。 つきましては、ハマグリの生息状況と種苗放流に適した場所を明らかにするため、地先海面のハマグリの分布調査と底質調査を実施し、今後の資源増殖に向けてのご指導を頂きたいと考えます。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	水産技術センター	担当部所	相模湾試験場（普及指導担当）
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合)			
対応の内容等 一般的にハマグリ（チョウセンハマグリ）は汀線～水深5mを中心とした潮下帯の中粒度から細粒度の砂底に生息するといわれています。茅ヶ崎市においても藤沢市のように、チョウセンハマグリの生息環境として適切な条件が整っている海域を特定することができれば、より効率的にその増養殖を行うことは可能であると考えます。 適切な生息環境が整っている場所を特定するために、成貝の分布調査を沖合で、稚貝の分布調査を地先の砂浜で行うことが必要です。これらの調査方法および結果の分析方法についての技術的指導を行ってまいります。また、底質については現場が行っている調査において、成貝の生息水深である5mの調査地点を増やすことで対応してまいります。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			